

革命的情勢と社会民主主義者の任務

アクセリロードは、——親仏的社会排外主義者と同様に——バーゼル宣言が述べているのはほかならぬ革命的戦術のことだということを、思いおこすことさえおそれている。将来——はっきりしない、未知の将来——にたいしては、アクセリロードは、将来のインタナショナルがどんな行動をとるか、についてきわめて左翼的な、革、革、革命的な言辞をぶっつける用意がある、——（戦争の危険があるばあいに政府にたいして）「革命の暴風をまきおこす」、うんぬん……「社会主義革命の序幕」（14 ページ）。冗談じやない!! まさにいま、こんにちの危機の時期に革命的戦術をどう適用するかが問題となっているとき、アクセリロードは、まったくカウツキー式に、こうこたえるのである。「革命的大衆行動」……この戦術には……「絶対主義にたいする決定的な闘争が近づいていることをしらせた1901年の学生デモンストレーション以後のロシアのばあいとほぼ同様に、われわれが直接に社会革命の前夜にあるなら、なおなにがしかの理由があるであろう」……（40～41ページ）……そしてそのさきでは、コルプ、ハイネ、ジュデクム、レギーンとまったくおなじ趣旨で、「空想」と「バクーニン主義」がこきおろされている!! だがロシアの実例は、アクセリロードをとくに明瞭に暴露している。1901年から1905年まで四年たった。ところが、だれも、1901年には、ロシアの革命（絶対主義にたいする最後の革命）が四年後にやってくると請けあうことはできなかった。社会主義革命前のヨーロッパの情勢も、まったくおなじである。だれも、この種の最初の革命が四年後にやってくるかどうかを、請けあうことはできない。しかし、革命的情勢が**現に存在する**ことは、1912年に予言されて1914年にやって来た事実である。1914年のロシアとドイツにおける労働者や餓えた都市住民のデモンストレーションも、疑いなく、「決定的な闘争が近づいていることをしらせている」。社会主義者の直接の無条件的な義務は、**これらのデモンストレーション**やあらゆる種類の「革命的大衆行動」（経済的ストライキと政治的ストライキ、軍隊内の運動、さらに蜂起と内乱にいたるまで）を支持し発展させ、それにはっきりしたスローガンをあたえ、非合法の組織と文書——これがなければ、大衆に革命を呼びかけることは**できない**——をつくり、大衆が革命を自覚して革命のために組織をつくるのをたすけることである。ロシアの社会民主主義者は、1901年に、ブルジョア革命（1905年にはじまったが、1915年にもおわっていない）の「前夜に」、まさにこのように行動した。社会主義革命の「前夜に」ある1914～1915年のヨーロッパの社会民主主義者は、まさにこのように行動する義務がある。革命は、けっしてできあがったものとして生まれるものではなく、ジュピターの頭から出てくるものでもなく、一挙に燃えあがるものでもない。革命のまえには、つねに動揺、危機、動き、騒擾、革命の**開始**という過程があり、しかも革命の開始は、**かならずしも**行きつくところまで発展するとはかぎらない（たとえば革命的階級が微力なら）。アクセリロードは逃げ口上を考えだしており、すでに現に存在している革命的情勢を地盤としてすでにはじまっている革命運動の発展をたすけるという、社会民主主義者の**義務**から彼らをそらしている。アクセリロードは、ダヴィッドとフェビアン派の戦術を擁護しており、ただ自分の日和見主義を左翼的な言辞でおおいかくしているだけである。

「世界戦争を内乱に転化させようとのぞむのは、狂気の沙汰だ」（『世界戦争中の社会

民主党』、ベルリン、1915年、172ページ）——日和見主義者の首領E・ダヴィッドは、わがロシア社会民主労働党の中央委員会の宣言を反駁してこう書いている。宣言は、1914年11月1日に発表されたものであって、このスローガンをうちだして、つぎのようにつけくわえている。「この転化の困難がある時期にどんなに大きなものであろうとも、社会主義者は、戦争が事実となつたばあいには、この方向をめざして、**系統的に、不屈に**、精力的に準備活動をするをけつしてこばまないであろう」（ダヴィッドの著書に引用、171ページ）。注意しておくが、ダヴィッドの著書が出る（1915年5月1日）一ヵ月まえに、わが党は、戦争にかんする決議を発表したのである（『ソツィアル・デモクラート』第40号、3月29日）。そこでは、「帝国主義戦争を内乱に転化させる途上の」系統的な「歩み」が、つぎのように規定されていた。（一）軍事公債、等々への投票を拒否すること、（二）《Burgfrieden》〔国内平和〕を破棄すること、（三）非合法組織を創設すること、（四）塹壕内の兵士の交歓を支持すること、（五）一般にプロレタリアートのあらゆる種類の革命的大衆行動を支持すること。

おお、勇敢なダヴィッドよ！ 1912年には、彼はパリ・コンミュンの例を、引合いにだすことを「狂気の沙汰」とは考えなかった。1914年には、彼はブルジョアジーに雷同して、「狂気の沙汰だ」という!!

革命的戦術にたいしてダヴィッドと完全に一致した評価をあたえたのは、「四国協商」がわの社会排外主義者の典型的な代表者プレハーノフである。……社会革命のまさに「前夜」、——この前夜から「決定的な闘争」までには、四年以上かかるかもしれない。これは、「プロレタリア革命」のまさに初歩であり、弱いものではあっても、やはりその萌芽である。このプロレタリア革命は、バーゼル宣言が言及しているところであって、それは、けつして一挙に強力になるものではなく、どうしても比較的弱い萌芽の諸段階をとおることはまぬかれない。

革命的大衆行動と革命運動を支持し、発展させ、拡大し、激化させること。この方向をめざして宣伝、煽動をおこなうために、また大衆が運動とその任務、その手段、その目的を自覚するのをたすけるために、非合法組織をつくること。この戦争中の社会民主主義者の活動のあらゆる実践的綱領は、これらの二項目に帰着する。その他のものはみな、それがどんなに左翼的な、えせマルクス主義的な、平和主義的な突飛な言葉で粉飾されていようとも、日和見主義的、反革命的な空文句である。

第二インターナショナルの守旧家たちが普通反駁するように、おお！ それは「ロシア式」のやり方だ!!（「ロシア的戦術」——ダヴィッドの著書の第8章）と、われわれに反駁するものがあるならば、われわれはあっさり事実を引合いにだしてこたえよう。1915年10月30日にベルリンで、数百（*einige Hundert*）の婦人が党指導部のまえでデモンストレーションをおこない、その代表を通じて党指導部につぎのように申し入れた。「**非合法のリーフレットやパンフレットをまき、無許可の集会をひらくことは、こんにち、党が巨大な組織機構をもっているさいだから、社会主義者取締法の時代よりも容易にできるだろう。不足しているのは手段と方法ではなく、あきらかに、意志である**」（傍点——引用者）。（『ベルナー・タークヴァハト』第271号）。

これらのベルリンの婦人労働者たちは、11月1日づけのロシアの党中央委員会の「バクーニン主義的」、「冒険主義的」、「セクト主義的」（コルプー味を参照）な、「狂気の沙

汰の」宣言にまよわされたにちがいない。

注) ………は青山の略

第 21 卷 P464-467 『日和見主義と第二インターナショナルの崩壊』

1915 年末に執筆

ポイント

革命的情勢における社会主義者の直接の無条件的な義務は、これらのデモンストレーションやあらゆる種類の「革命的大衆行動」を支持し発展させ、それにはっきりしたスローガンにあたえ、非合法の組織と文書をつくり、大衆が革命を自覚して革命のために組織をつくるのをたすけることである。

革命は、けっしてできあがったものとして生まれるものではなく、神の頭から出てくるものでもなく、一挙に燃えあがるものでもない。革命のまえには、つねに動揺、危機、動き、騒擾、革命の開始という過程があり、しかも革命が始まっても革命的階級が微力なら、かならずしも行きつくところまで発展するとはかぎらない。

革命的情勢を革命に転化することが、ある時期、どんなに大きな困難があろうとも、社会主義者は、戦争が事実となったばあいには、この方向をめざして、系統的に、不屈に、精力的に準備活動をおこなわなければならない。その準備活動とは「空想」的なものではなく、具体的行動であり、それは当時のロシアでは（一）軍事公債、等々への投票を拒否すること、（二）国内平和を破棄すること、（三）非合法組織を創設すること、（四）塹壕内の兵士の交歓を支持すること、（五）一般にプロレタリアートのあらゆる種類の革命的大衆行動を支持すること、であった。つまり、革命的大衆行動と革命運動を支持し、発展させ、拡大し、激化させること。この方向をめざして宣伝、煽動をおこなうために、また大衆が運動とその任務、その手段、その目的を自覚するのをたすけるために、非合法組織をつくることであった。この戦争中の社会民主主義者の活動のあらゆる実践的綱領は、これらの二項目に帰着する。

われわれは今、平和な時代にいる。私達も、平和な時代に、大衆行動と革命運動を支持し、発展させ、拡大し、激化させるための宣伝、煽動をおこない、大衆が運動とその任務、その手段、その目的を自覚するのをたすけなければならない。わたしたちも、「不足しているのは手段と方法ではなく、あきらかに、意志である」といわれないように戦わなければならない。曝露もしないで選挙の時だけ手当たり次第に電話で党への支持を呼びかけてもダメだ!!